

# 宿縁

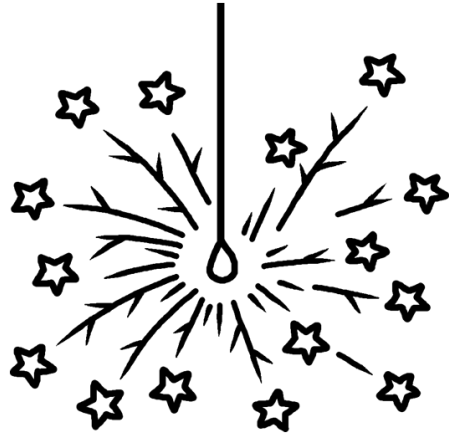
八月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗  
本願寺派 **中原寺**

TEL 〇四七—三七二—〇二九二  
FAX 〇四七—三七二—〇二六二

わが妻子ほど不便  
なることなし、  
それを勸化せぬは  
あさましき事なり



今月の表題の言葉は、本願寺第八代蓮如上人の日頃仰っていた言行などを収録し記録された「蓮如上人御一代聞書(本65)」の中にある一節です。

この場合「妻子」は夫側から言っているの  
で、妻の立場からなら「夫子」に置き換えて  
も差し支えありません。

家族または家庭という意識が薄れてきた  
現代社会にあって今一度、夫婦・親子という

間柄を考え直したいと思います。

表題の言葉は、

「宿善なくば力なし。わが身を一つ勸化せぬ者があるべきか。」と続いています。

ここで1918年、広島で「真宗光明団」を創設された住岡夜晃(すみおかやこう)師の解説を紹介します。

『「わが妻子ほど不便なることなし」わが妻子ほど我に近いものはなく、かわいものは外にない。その一番不便なる妻子を「それを勸化せぬはあさましき事なり。」まことに言葉通りである。世間の人を教化し、勸化するかに見える人が、自分の妻子を勸化せぬならば、そこには必ず、その人の胸中に何か清算されぬものが残っているであろう。しかしいかに勸化しようとしても、泥に灸をすえるがごとく、聞こうとする願いが起こつて来ない「無宿善の機」はいかんともできない、そこで「宿善なくば力なし」と言われるのである。しかしながら、妻子を勸化する以前に、「わが身を一つ勸化せぬものがあるべきや。」まことに至言(適切に言い表わした言葉)と言うべきである。ありがたい手厳しいみ教えである。わが身を勸化せぬものは、我が真実の人生の外に隔離するものである。』

さあ、この言葉をわが身に引き替えてみると思い当たることではないでしょうか。

住岡夜晃という人は安芸門徒と呼ばれる

広島県山県郡の篤信の父母のもとに生まれ、青年期の小学校教師の時期に、親鸞聖人の語録である「歎異抄」に出遇われました。五十四年の生涯をひたすら求道と教育の為に身を捧げられました。その生涯は親鸞聖人が示された本願念仏の教えのみが人間の抱えているあらゆる問題を真に解決することが出来るただ一つの確かな道であることを、いのちを削つてわたし達に明らかにして下さいました。「真宗光明団」はこの尊い念仏者であり教育者である住岡夜晃師が24歳の時に創設された浄土真宗のサンガです。すなわち人生の道を仏法に聞いていく僧俗を超えた人々の集まりで、今なお福岡教育大学教授で理学博士であった細川巖、広島大学の松田正典教授、また当寺にも親しくご縁をいただく医師田畑正久、志慶眞文雄といった方々に脈々と引き継がれています。

住岡夜晃師は、仏教を単なる研究的対象として勉強することではなく、自ら仏教によって救われ、仏教によって終生自己を照らされていった人なのです。

さて、表題の言葉を吟味しましょう。

今日の時代、よく「機能不全家族」といわれます。一般家庭の半分は機能不全家族となる可能性を十分にはらんだ「予備軍」とも言われています。その背景には、家族のカタチは時代とともに変化してきましたが家族の個人化により家族は「点」になりつつあるという事です。つまり…祖父母―親―私―子―孫へという「線」がそれぞれに孤立化した「点」と考えるようになってきたことです。

かつて日本において、家族は「線」でつなが

っていました。線は結婚や出産などによって、連続と過去から未来へと結ばれてきました。しかし時代とともに「線」は「点」になりつつある。その背景にあるのが「家族の個人化」です。

世の中における最小単位のコミュニティである家庭の風景は変わってしまいました。「食事を一緒にする」、「社会の話題を語り合う」、「人生とは何かを共有する」等々。

関係性の欠如と嘆いていても始まりません。「家族の個人化」といっても夫が死ぬ、妻が死ぬ、子どもが死ぬという事実には直面したとききつと人は大いに嘆きます。それは他人事と見ていた「死別」が、「私の生死の解決」へと眼が大転換される瞬間だからです。

「どうせいつかは人間死ぬんだから、「せいぜい生きている間に楽しまなければ」、「お墓に入ってハイおしまい！」などで与えられた人生を済まされることでしょうか？」

そういう考えを宿善なき人といえます。仏の教えを尊ぶ時期が熟していないため、教えが耳に入らない人。蓮如上人は、日頃より心がけて努力した人にこそ、聞法の時期は開かれるものだと言われています。

安樂仏国にいたる(往生成仏)には

無上宝珠の名号(南無阿弥陀仏)と

信実信心(如来本願の領解)ひとつにて

無別道故とときたまふ (親鸞聖人和讃)

仏法を一緒に聞き、仏の教えを仰ぐところに人生の諸問題解決があり、夫婦、親子の真の絆が結ばれるのだと申されます。

聞法の場合は「代表者でよい!」と思っではないか? 家族で仏法を語り合う場を持つことを心掛けましょう。

【寺灯雑記】

○梅雨明けの晴天のなか常例法座  
7/18

梅雨が明けるとともに連日暑い日が続き  
ますが、常例法座が開かれたこの日も30℃  
を超える気温を鑑みて開法会館での開催と  
なりました。

ご講師の網代豊和師(東松山市・西照寺)  
より、阿弥陀さまおはたらきは、私たちに  
不可思議(人間の思いやほからいを超えてい  
るさま)である。そのおはたらきを私たちは  
直接目にするにはできないが、おはたらき  
に遇うことにより私自身が仏法を聴聞し、お  
念仏する身に育てられる姿がある。そのこと  
を通して、阿弥陀さまのお心に触れさせてい  
ただけると、お話しいただきました。

○第二墓地に個別永代廟建立

少子化や核家族化によって「墓じまい」と  
いう言葉が聞かれるようになるなど、現代社  
会におけるお墓のあり方が変化しつつあり  
ます。中原寺においても様々なケースのお墓  
の相談を受けることが多くなりました。この  
ような現状に対応するために、このたび中原  
寺第二墓地の一面に個別永代廟を建立する  
こととなりました。

個別永代廟では、合葬のほか、ご家族ごと  
の納骨壇を設けるなどそれぞれの事情に  
合わせてご利用いただけます。

お盆過ぎより着工し、十月末に完成を予定  
しています。工事中、法要・諸行事や墓参の  
際、ご不便・ご迷惑をおかけしますが、ご理解  
ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。  
ご相談をお受けしています。

○永代経懸志進納

・篠田卓志 様

【仏教語講座「観察」】

「自然を観察する」「子どもの行動を観察  
する」「動物の生態を観察する」「観察力が  
鋭い」「観察眼を養う」「観察日記をつけよ  
う」など、観察は、物事をくわしく見てし  
らべること、物事のありのままの現象を、  
客観的に、注意深く見きわめることを意味  
する日常語です。

テレビの「ニンゲン観察バラエティモニ  
タリング」は、普段ありえないような場面  
を設定し、人間がどんな行動をするのかを  
観察する人気番組です。

仏教では「カンザツ」と読み、智慧によ  
って対象を正しく見きわめることを意味し  
ます。

お釈迦さまは、自分を含めた世界を観察  
思惟(しゆい)し、そのあるべき姿を説か  
れたといわれています。

七高僧の一人、中国の善導大師(ぜんど  
うだいし)の『観経疏(かんぎょうしよ)  
には、浄土に往生するための行業(ぎょう  
ごう)として、五種の正行(しようぎよう)  
が説かれています。その中に「観察正行  
(かんざつしようぎよう)」があります。一  
心にもつばら浄土の阿弥陀仏や、その浄土  
のありさまに心をそそいで、それを観察し、  
常に思うことと説明されています。

その他にも、観察時衆(じしゅう)、観察  
得失(とくしつ)など、観察という語は仏  
典に多く出てきます。  
観察は智慧によって行うものですから、

物事を見るときには、私情や主観を交えない  
で、あるがままに、観察してもらいたいもの  
ですね。  
(大乘2019年8月号より転載)

【帰敬式(おかみそり)受式希望者へ】

○受式日:十一月十五日、十六日

場所:築地本願寺

内願法名希望冥加金:二万円

\*希望される方は八月末までに中原寺へ

ご連絡ください。申し込みが必要です。

\*戒名と法名の違い

いずれも仏教徒としての名前を表す言  
葉ですが、浄土真宗では「法名」、他宗で  
は「戒名」・「法号」ともいいます。

戒名は、厳格な規律(戒律)を守って修  
行する人びとにつけられる名前です。

それに対し、浄土真宗では、戒律の一つ

も守ることのできないこの私たちを、必ず  
救い浄土へ迎えるという阿弥陀さまのは  
たらきを「法」と呼び、その法の中に生か  
されている私たちがいただく名前を「法  
名」といいます。

法名は仏弟子としての名のりですので、  
生前にいただくのが本来の趣旨です。

【法要・法座のご案内】

◇盂蘭盆会法要並びに

全戦没者追悼法要修行

・八月八日(日) 午前十時

おつとめ \*「さんだんのうた」

\*「仏説阿弥陀経」

讃仏歌 「み仏に抱かれて」

法話 増田廣樹師(茨城東組・清心寺)

浄土真宗におけるお盆は、先立って往生さ  
れた方々を偲びつつ、この私自身が真実の  
み教えに出遇わせていただく大切な仏事  
です。

コロナ禍にある身だからこそ、仏法を通し  
ていのちの尊さに気づかせていただきま  
しょう。

当日の暑さを観測しながら、本堂か会館で  
の法要修行となります。

○いのちの居場所を考える会

・八月二十六日(木) 十時〜十二時

「場の思想」から、人間を含めた生きもの  
が、地球で共に存在していくにはどうした  
らよいかを考える。

○教行信証を学ぶ(信巻)

・八月二十八日(土)

講師:前住職

○婦人会法座

・九月四日(土) 一時

前住職の正信偈(善導大師)解説

○壮年会法座

・九月四日(土) 三時

住職の阿弥陀経解説と質疑

【八月の掲示板のことば】

信心とは

如来からの呼びかけが

聞こえたこと

○YouTube 中原寺で前住職法話配信!